

保護者のみなさまへ

河内長野市立川上小学校
校長 池内 宏明

令和6年度 全国学力・学習状況調査及びすくすくウォッチの結果について

仲秋の候、平素は本校教育のためにご支援ご協力を賜りまして厚くお礼申し上げます。

今年度4月に本校の6年生に実施しました「全国学力・学習状況調査」及び「すくすくウォッチ」の結果について、分析（成果と課題）及び取り組みをご報告させていただきます。

1. 学力調査の概要

(1) 国語について（全国学力・学習状況調査）

評価の観点別 平均正答率	川上小学校	大阪府	全国
全体	68%	66%	67.7%
知識・技能	72.5%	68.6%	69.8%
思考・判断・表現	64.7%	63.9%	66%

【概要】平均正答率は、大阪府・全国と比べ、ともに上回っている。「思考・判断・表現」にあたるB書くことC読むことにおいて、平均正答率が全国よりも下回るとい結果になっている。また、問題形式においては、記述式の平均回答率が低い結果となっている。

〈特に成果が見られた問題〉

問題1三の目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる問題や、問題3二(1)の人物像を具体的に想像することができるかどうかをみる問題では、大阪府や全国に比べ大きく上回っている。授業において、丁寧に文章を読み取る活動をしている成果と考えられる。

〈特に課題が見られた問題〉

問題2二では、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することが大阪府や全国に比べ下回っている。記述する上での3つの条件のうち、「たてわり遊びのよさ」について読み取れていない、もしくは書けていない児童が47.1%も見られる。また、問題3三の記述式の問題も下回っている。内容を正しく読み取り、自分の意見として書く力、そして条件に合った記述ができるような取り組みをしていく必要がある。

(2) 算数について（全国学力・学習状況調査）

評価の観点別 平均正答率	川上小学校	大阪府	全国
全体	67%	63%	63.4%
知識・技能	75.5%	71.9%	72.8%
思考・判断・表現	55.9%	50.5%	51.4%

【概要】平均正答率は、大阪府・全国と比べ、ともに上回っている。また、全体の4割の児童が16問中14問以上正解できている。領域別、観点別に見てもすべての項目で平均を上回っており、全体的に無回答率が低く、問題に粘り強く取り組む姿勢が身に付いていると言える。しかし、記述式の正答率が低い結果となっている。

〈特に成果が見られた問題〉

問題3(2)では、円柱の側面の横の長さが、底面の円周の長さに等しいことを理解して正答している割合は大阪府・全国と比べ20%も上回っている。540÷0.6の計算問題4(1)や円グラフの特徴を理解し、割合を読み取る問題5(1)では、大阪府・全国と比べ5%以上、上回っている。このように、知識・技能を問う問題で基礎・基本が定着している児童の割合は高いと言える。

〈特に課題が見られた問題〉

問題1(1)では、正答率は61.8%で大阪府よりも若干、上回っている。しかし、文章を丁寧に読めば、正答率はもっと上がると思われる。文章を正しく理解できておらず、単純に「少ない」という言葉から引き算を選択してしまっている児童の割合が多い。問題3(3)では、球体が箱にぴったり収まるためには、箱の縦・横・高さの長さが、球体の直径に等しくなれば良いという考え方が定着していない。問題3(4)では、面の数は数えることができているが、底面と側面の定義が定着しておらず、区別できていない。問題4(3)では、大部分が正答を選択しているが、その理由を適切に説明できていない。問題5(3)では、違いがもっとも大きい年代のみ答えている児童が20.6%となっていることから、問題の後半を見落としている可能性が高い。

(3) 理科について（すくすくウォッチ）

評価の観点別 平均正答率	川上小学校	大阪府
全体	64.7%	63.7%
知識・技能	71.8%	69.9%
思考・判断・表現	52.2%	52.7%

【概要】大阪府と比べて、「エネルギー」「粒子」を柱とする領域の平均正答率は上回っているものの「生命」「地球」を柱とする領域の平均正答率は下回っている。選択式の問題は比較的よく解答できているのに対し、短答式や記述式になると、記述の条件が満たすことができず、大阪府を下回る問題が多い。

〈特に成果が見られた問題〉

問題2(3)①簡易検流計の正しい使い方を答える問題では、正答率が大阪府より18%も上回っている。問題2(4)①振り子が一往復する時間を正確にはかる方法を答える問題では、正答率が大阪府より13%上回っている。問題2(4)②振り子の周期は振り子の長さによって変わることを理解し、正しく実験を行うための条件を考える問題では、正答率が大阪府より9%上回っている。簡易検流計の正しい使い方や、振り子の法則については、よく理解できていると考えられる。

〈特に課題が見られた問題〉

問題2(1)骨と骨のつなぎ目の名称を「関節」と答える問題では、正答率が大阪府と比べて下回っている。問題2(3)②では、電磁石の磁力を強くする方法について記述式で解答をする問題では、正答率が大阪府と比べて下回っている。「乾電池を増やして直列つなぎにする」が正答だが、「乾電池を増やす」のみを記述している児童が多い。「コイルの巻き数を増やす以外に」と問題文に書かれていたが、「コイルの巻き数を増やす」と解答している児童も数名見られる。ただ、無回答の数が少ないため、解答しようとする意欲は高いと言える。

(3)【わくわく問題（教科横断的問題）】について（すくすくウォッチ）

観点別	学校の平均正答率	大阪府の平均正答率
全体	72.7%	68.5%
A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、正しくとらえる。	71.2%	70.7%
B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに論理的に考える。	68.5%	62.5%
C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに新たな課題を考える。	78.8%	74.6%
D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、それをもとに自分の考えをまとめ、伝える。	85.9%	79.7%
E 興味・関心のある事からについて、意欲的に工夫して相手に伝える。	100%	89.9%

【概要】

全体、観点別ともに平均正答率は、大阪府と比べ上回っている。観点別にみると、観点Eの正答率が100%と素晴らしい。また、観点BやDの正答率は、大阪府と比べ5%以上上回っている。全体的に正答率が高く、無回答はなかった。

〈特に成果が見られた問題〉

問題1(2)チェーンとギヤの仕組みについての説明文や会話文をもとに、2つのギヤの歯車とペダルの重さとの関係を理解し、坂を上るときに適したギヤの組み合わせを選ぶ問題では、正答率が大阪府より15%上回っている。問題3(3)根拠とする資料を選び、その資料をもとに学校のみみんなに伝えたい内容を考え、伝えたいことをポスターに表現する問題では、それら条件を全て満たして解答できている児童の割合は、大阪府より7%上回っている。

〈特に課題が見られた問題〉

問題3(1)は、資料をもとにまとめたメモの中から間違っただ記述を選択する問題である。正答率が大阪府と比べて3%下回っている。資料の読み取り（読解力）に課題が見られる結果である。問題2(3)記述式で解答する問題では、条件をすべて満たしていない割合が多い。また、正答率も30%と低く、自分で考えて記述する問題に課題が残る。

(4)児童アンケートについて（全国学力・学習状況調査）

〈特に成果が見られたアンケート項目例〉

質問番号	質問項目	肯定的な回答率		
		本校	大阪府	全国
11	将来の夢や目標を持っていますか	91.2%	81.8%	82.4%
15	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	100%	95.0%	95.9%
27	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのIC機器を、どの程度使用しましたか（「ほぼ毎日」「週3回以上」と回答した割合）	76.5%	50.2%	59.5%
30	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	91.2%	80.2%	81.9%
35	授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか	88.8%	81.9%	83.7%
41	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	94.1%	87.3%	88.2%
55	算数の問題の解き方が分からなかったときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか	97.1%	81.2%	83.3%

〈特に課題が見られたアンケート項目例〉

質問番号	質問項目	肯定的な回答率		
		本校	大阪府	全国
7	携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。	58.8%	72.2%	71.1%
38	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	70.6%	79.0%	81.3%
47	国語の授業で、目的に応じて、話すために集めた材料を、いくつかのまとまりに分けたり結び付けたりしながら、伝える内容を考えていますか	70.6%	79.6%	80.0%

【概要】

全体的には大阪府や全国と比較して肯定的に回答をしている質問項目が多く見られる。質問番号(27)の結果について、令和4年度に川上小はスマートスクール推進校としてICT教育に力を入れ、また昨年度も引き続きICT機器を多く活用した授業に取り組んできた。授業で活用するICTスキルだけでなく、質問番号(7)の改善に向けて、学校では情報モラル教育にも一層力を注ぎたい。質問番号(30)(55)では、どちらも肯定的な割合が9割を超えていて、「自ら考え、自ら取り組む」「最後まで諦めない」という学習の取り組み方が身に付いてきている。そこから、もう一歩、力をつけるために、国語では質問番号(47)の「集めた材料の比較、分類、関係付け」に注力しなければならない。また、質問番号(38)を改善させる取り組みとして1学期に総合的な学習の時間の「ふるさと学」について、体験的な活動を通して自ら課題を見出し、協働的に探究する活動に取り組んだ。

2. 調査結果を受けて

(1)学校が重点的に取り組んでいくこと

国語においては、文中から言葉や文を取り上げて、説明をしたり自分の考えを書いたりする学習に丁寧に取り組む。また、書く力を向上させるために、内容を正しく読み取ることや自分の意見として書くこと、また条件に合った記述ができるような取り組みをしていく。

算数においては、算数的な言葉の意味を正しく理解し、文章を正しく読む力や自分の考えを適切に表現する力をつけられるような取り組みをしていく。

どの教科においても、基本的な語句・用語をきっちりとおさえ、確実な定着を目指す。また、複数の情報源から適切な情報を取捨選択して、それをもとに自分の考えを書く学習場面を国語、算数をはじめ様々な教科で設定する。タブレットを用いて情報を集める際にも、適切な情報の選び方や引用の仕方、自分の考えの書き方なども丁寧に指導していく。また、発表する際に、相手に効果的に伝わるよう工夫する場面を取り入れ、そのような場面を多く取り入れることで自分の考えを書くことに抵抗がなくなるよう、根気強く指導を行っていきたい。

(2)児童のみなさんに取り組んでほしいこと

- 調べ学習をするときは、自分のめあてに合った資料はどれか、たくさんの資料の中から見つけ出し、どの言葉を使ってまとめたらいいか、またそこから考えたことは何か、相手がより理解してくれるためにはどんな工夫をしたらいいかをよく考え取り組みましょう。
- 大切な言葉はしっかりと覚えるようにしましょう。また、自分が苦手なところはどこかを見つけ、自分なりにノートにまとめたり、練習問題に取り組んだりするなど、粘り強く取り組みましょう。
- 作文や振り返り、テストの答えなど、書き終わった後に読み返しましょう。読み返すときには、読む相手に自分の伝えたいことが本当に伝わるのか、間違っただ表現をしていないかなどを見直し、文章をよりいいものに書き直す習慣をつけましょう。

(3)保護者のみなさまに協力してほしいこと

今回の調査結果をお子さんと一緒にご覧になり、子どもたちを取り巻く課題を知っていただくことで、学校と保護者が同じ方向性を持つことができ、よりよい子どもたちの育ちにつながると考えています。また、子どもたちが健康で意欲的に学習活動や行事に取り組んでいけるよう、規則正しい生活習慣の維持を引き続きお願いします。今後とも、本校の教育活動にご理解とご協力をお願いします。